

令和6年度農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表

都道府県名：香川県
農業委員会名：善通寺市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和6年4月1日現在)

※「I 農業委員会の現況」については、別紙様式1の内容を転記

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 R5 年 7 月 20 日

任期満了年月日 R8 年 7 月 19 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	14	14
認定農業者	—	7
認定農業者に準ずる者	—	2
女性	—	1
40代以下	—	1
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	14	14	7

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	1,197
農業経営体数	665

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	712
女性	283
40代以下	41

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	73
基本構想水準到達者	3
認定新規就農者	8
農業参入法人	0
集落営農経営	0
特定農業団体	0
集落営農組織	0

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,000	193				1,190

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の実施状況

【農業委員会の実績及び点検・評価結果】

※ 「現状及び課題」及び「目標」については、別紙様式1の内容を転記

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)／(A)	
	1,190	ha	398	ha	33.4	%
課題	農業従事者の減少、高齢化等による耕作放棄地の増加、農地の分散錯雑等が農地の確保・有効利用を図る上での課題となっている。担い手が耕作する農地の分散による作業効率が低下、また、不在村地主等所有者不明農地の増加などに対し、早急の対策を講じて利用集積を図る必要がある。					

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	12	年度	集積率	67	%
今年度の新規集積面積	3	ha	農地面積(C)	1,190	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	401	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	33.7	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

③ 実績

今年度の新規集積面積	-7.7	ha	農地面積(F)	1,190	ha
今年度末の集積面積(累計)(G)	390	ha	今年度末の集積率 (H)=(G)／(F)	32.8	%
目標に対する達成状況(H)／(E)	97.3	%			

農業委員会の 点検結果	担い手担当部局において令和6年度の担い手リストを精査した結果、13名をリストから除外したことにより、集積面積の実績が大幅に減少した。引き続き活動を強化するとともに、積極的なあっせん活動を行う必要がある。
----------------	---

※1 今年度の新規集積面積は、当該年中の集積面積(フロー)を記入

※2 今年度末の集積面積(累計)は、年度末時点の集積面積(ストック)を記入

(2) 遊休農地の発生防止・解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積		
	うち緑区分の遊休農地面積		うち黄区分の遊休農地面積
	5.3	ha	1.8 ha
遊休農地となった原因は複雑であり、今後は後継者のいない高齢農家の廃業や相続等による不在村地主の発生等の原因から、更なる増加が懸念されており、継続的な所有者への働きかけや、耕作者の確保が必要である。			

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	3.0	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(C)	0.7	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	2.3	ha
黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	人・農地など関連施策の見直しを踏まえ、担い手に集積・集約できる農地から効率的かつ総合的な利用を促進する。	

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	3.5	ha
---------------------------	-----	----

③実績

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

今年度の緑区分の遊休農地の解消実績面積(D)	1.1	ha
今年度の目標に対する達成状況(D)／(C)	157.1	%

b 黄区分の遊休農地の解消

黄区分の遊休農地の解消に向けた工程表の策定状況	黄区分の遊休農地の解消に向けて、農地機構の農地集積専門員と意見交換を行い、工程表を策定した。	
-------------------------	--	--

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消実績面積	0.8	ha
---------------------------	-----	----

④その他

農地の利用状況 調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	8月～9月		8月～9月	
	1号遊休農地 の面積	5.4 ha	うち緑区分の遊休農地	3.4 ha
			うち黄区分の遊休農地	2.0 ha
農地の利用意向 調査	調査実施時期		調査結果取りまとめ時期	
	10月～11月		12月～1月	
農業委員会の 点検結果	農業委員及び農地利用最適化推進委員が地区の遊休農地の状況を調査した結果を基に、農業委員会事務局にて調査結果をとりまとめ、農地利用意向調査を行い解消が図られた事例があるなど、一定の成果があった。また、遊休農地所有者への指導を含めた調査活動をより一層強化する必要がある。			

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	3年度新規参入者		4年度新規参入者		5年度新規参入者	
	2	経営体	2	経営体	1	経営体
	0.8	ha	0.3	ha	0.3	ha
課題	担い手の高齢化、後継者不在の農家の増加に伴い、農業の次世代を担う人材の確保が急務となっている。新規就農希望者の多様なニーズと農業現場の実態を的確に把握し、就農相談から経営の開始・定着まで一環したサポート体制を充実・強化し、新規就農者の経営の早期安定化に努めるとともに、後継者不在の農家の経営資産を有効活用するなど、より多くの新規就農者を確保し確実に定着させていくことが必要である。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体に集積した農地面積を記入

②目標

権利移動面積	3年度	4年度	5年度	平均
	0.8 ha	0.3 ha	0.3 ha	0.5 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積(A)	0.1 ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

③実績

新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表した農地の面積(B)		0.0	ha
公表URL		(その他の公表方法)	
目標に対する達成状況(B)/(A)		0.0	%
(参考)新規参入者の参入状況	参入経営体数	5	経営体
	取得農地面積	1.4	ha

農業委員会の点検結果	目標を達成することができなかったが、引き続き、農協、普及センター、関係各機関との連携を密とし、新規参入の促進に努める。
------------	---

※ 参入経営体数は、農地を取得して新たに農業に参入した経営体数を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	6	日／月	最適化活動を行う農業委員の人数	14	人
			農地利用最適化推進委員の人数	14	人

(2)活動強化月間の設定

①目標

活動強化月間の設定回数	3	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の内容
5月～9月	農地の集積	地域計画策定にかかる話し合いへの積極的関与
11月・12月	遊休農地の解消	遊休農地所有者への農地利用意向確認、農地機構の利用
随時	新規参入の促進	農業相談(毎月1回)開催し、就農に向けての情報提供や農業経営者としての自立を支援

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の発生防止・解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

②実績

活動強化月間の設定回数	3	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の結果
5月～9月	農地の集積	今年度開催の地域計画策定にかかる農業者座談会に積極的に参加した。
11月・12月	遊休農地の解消	遊休農地所有者の農地利用意向を確認し、農地機構を介した貸借を実施した。
随時	新規参入の促進	新規参入を希望する者に具体的な就農に向けた各種制度や農地の取得に関する説明を行った。

※ 強化月間の結果欄は、強化月間中に行った具体的な取組の内容とその結果生じた効果等の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加

①目標

新規参入相談会への参加回数	1回
---------------	----

開催時期	随時	相談会名	農業相談
参加者数	1名	開催場所	市庁舎
相談会の内容	農業相談(毎月1回開催)で新規参入の相談があった際に、新規就農を希望する地域の推進委員等や関係機関と協力して、就農に向けての情報提供をはじめ、農業経営者としての自立を支援する。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加する場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する

②実績

新規参入相談会への参加回数	3回
---------------	----

開催時期	随時	相談会名	農業相談
参加者数	1名	開催場所	市庁舎
相談会の内容	農業相談において、新規参入の相談はなかったが、新規就農を希望する地域の推進委員等や関係機関と協力して、就農に向けての情報提供をはじめ、農業経営者としての自立を支援する体制を整えた。		
開催時期	7月、10月	相談会名	新・農業人フェア2024
参加者数	各1名	開催場所	東京、大阪市
相談会の内容	善通寺市の新規就農生を募集するため、農業人フェアに同行し、移住を伴う新規就農を目指す若者と面談した。		

※1 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加した相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加した新規参入相談会ごとに1回とする)

※2 複数の新規参入相談会に参加した場合は、適宜、開催時期以下の欄を追加する(評価点欄は追加しない)

目標の達成状況の評語

目標に対し期待を上回る結果が得られた

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語を記入

【推進委員等の点検・評価結果】

評語	推進委員等の人数
目標に対し期待を大幅に上回る結果が得られた	0
目標に対し期待を上回る結果が得られた	28
目標に対して期待どおりの結果が得られた	0
目標に対して期待を(やや)下回る結果となった	0

※ 別表に基づいて成果目標及び活動目標の各目標の達成状況に対する評語ごとの該当する推進委員等の人数を記入